

JSPD スポーツ★ニュース

NEC川崎一埼玉上尾、レシーブする
NEC川崎の佐藤淑乃選手(左奥)



サントリーー大阪ブルテオン。スパイクを放つサントリーーの高橋藍選手(奥)

バレーの SVリーグ、幕開け 世界最高峰へ、レベル底上げ

10月11日、バレーボールの新リーグ、SVリーグが幕を開けた。「S」にはStrong(強く)、Spread(広く)、Society(社会)などの意味を含め、地域密着を進めながら競技力を高める。

実業団チームが中心だった以前のVリーグに代わるトップリーグとして発足。男子は昨季Vリーグ1部(V1)の全10チーム、女子はV2の2チームも加えた14チームが参戦。同時にコートに立てる外国選手(アジア枠を除く)も2人に増えた。「五輪で」メダルを取れる代表にしようと思ったら、リーグ戦のレベルが高くなければならない」とリーグトップの大河正明チエアマン。28年ロサンゼルス五輪へ向けた底上げを期待する。

バレーボールのトップリーグは「プロ化」を掲げては行き詰まり、マイナーチェンジを繰り返してきた歴史がある。従来は日本代表の人気の国内リーグの盛り上がりにはうまくながらなかった。日本男子は近年の躍進やパリ五輪での激闘もあって、人気が高まるばかり。この機会を生かせるかどうかは関係者の今後の取り組みに懸かっている。

レギュラーシーズンの試合数は男女とも増え、来年4月までの計44試合に。男子6位内、女子8位までがプレーオフに進出し、決勝は5月上旬に開催される。

男子個人種目別決勝、
クラブの演技をする
尾上選手



女子個人種目別決勝、
リボンの演技をする
鶴田選手



全日本新体操

鶴田、尾上選手が3冠 男子団体は青森大が4連覇



男子団体決勝、演技する青森大の選手ら

新体操の全日本選手権は、8日から3日間の日程で群馬・高崎アリーナで行われ、個人種目別の女子は鶴田芽生選手がボール、クラブ、リボンを制し3冠を遂げた。フープは喜田みら乃選手が勝った。男子は尾上達哉選手がスティック、クラブ、ロープで3冠。リングは大村光星選手が制した。

個人総合で女子は喜田選手が合計116700点で優勝した。男子は堀孝輔選手が合計72375点をマークして勝った。

男子団体は青森大が4連覇。女子は東京女子体育大が制した。

